



本校の授業改善に向けた視点

指導内容・方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内での研究・研修の工夫	評価活動の工夫	家庭・地域との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・水曜学習教室や、長期休業中の補充学習で、基礎的・基本的な知識の着実な定着を図る。 ・習熟度別、少人数指導の工夫。(数学・英語) ・グループ学習、ペア学習を取り入れ学び合い学習を展開する。 ・個々の生徒の能力に応じた課題設定や指導方法の工夫・改善を図る。 ・ICT(タブレットPC)の活用を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のどちの葉タイムを活用し、読解力・思考力・表現力・発信力・集中力を付ける。 ・目標をもち何事にも取り組める力の育成のため、体験的学習の充実を図る。 ・人権教育を意識した指導体制で、毅然とした生活指導に取り組み、規範意識ならび、授業規律の定着向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学力を活用し生き抜くために～思考力・実践力の充実」をテーマに、生徒の実態調査を行い、その結果に基づいて研究授業を行い、生徒の思考力・判断力の伸び、また評価方法などを検討し、個々の教員の指導力の向上に取り組む。また、年度末に実態調査をもう一度行い生徒の変容を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価計画を保護者・生徒に提示し、学習活動への理解を深め、家庭や個々の生徒の意識向上に努める。 ・「評価説明資料」を添付すると同時に、通知表を通し、学習状況のより詳細な情報を保護者へ提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開や三者面談を利用し、保護者からの意見を集約する。また、授業公開を通して、学校評議員や地域の意見の集約を図り、教育課程の改善につなげる。 ・ゲストティーチャーなど地域の人材を生かした取組の実施。 ・生徒による、地域の祭礼等でのボランティアの取組。